

歴史的事象について、根拠を基に考え、表現する力を高める指導の工夫

—『政策評価カード』を活用した比較・関連付けを通して—

特別研修員 社会 荻野昌和（中学校教諭）

【生徒の実態】

- 根拠を基に自分の考えをまとめる力の定着が不十分
- 歴史的事象の捉え方が、表面的・一面的である



【教師の願い】

- 根拠を基に考えを表現できる力を育てたい
- 比較・関連付けて考え、多面的・多角的な見方や考え方ができる力を育てたい

授業実践 単元『武家政権の成立と東アジア』



『政策評価カード』とは・・・

歴史的事象を5段階で評価し、そのように評価した根拠を自分の言葉で表現するカード。事象と事象を比較したり、事象間の関連を説明したりする時に活用する。

手立て1 『政策評価カード』を活用し、比較・関連付けて時代の特色を考察する活動

【家来の主君に対する信頼度と政権の権威を考察する学習】

授業のまとめとして『政策評価カード』を書き、信頼度と権威を5段階で表し、そのように評価した根拠を自分の言葉でまとめる。

政策評価カード

【鎌倉幕府成立後】	あてはまる数字を○で囲む	非常に強い	強い・高い	普通	余りない	全くない
鎌倉幕府の権威	⑤	4	3	2	1	
御家人の幕府に対する信頼度	⑤	4	3	2	1	
理由や根拠						
権威						
信頼度						

本時の学びと前時とのつながりを比較することができるので、歴史の関連性を考えて考察しやすくなったよ。



なぜそのような数字に評価したのかを考えると、自分なりの根拠を書きやすくなったよ。

【『政策評価カード』の内容を交流し

意見をまとめ発表する学習】

小單元ごとにまとめてきた『政策評価カード』を基に交流し、グループごとに1つの事象を割り振り、その事象における信頼度を考え、ホワイトボードにグループの意見をまとめて発表する。



自分と友達の考えを比べ、深め合うことができたよ。

5段階評価でいくつになるのか、その根拠は何かを話し合う方が、これまでの話し合い活動よりも活発な意見交換ができたよ。



手立て2 『政策評価カード』を基に『信頼度グラフ』を作成し、自分の考えを再構成して表現する活動

【『政策評価カード』を基にして『信頼度グラフ』をまとめる学習】

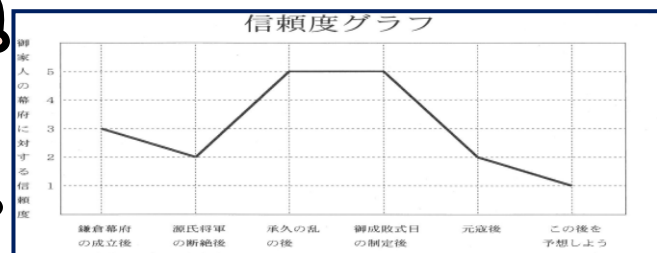
『政策評価カード』を基に、御家人の幕府に対する信頼度を『信頼度グラフ』（折れ線グラフ）に表す。根拠を基に家来の主君に対する信頼度を考察し、歴史の流れを大観しながら、そのようなグラフになった根拠を自分の言葉でまとめ、発表する。

『信頼度グラフ』とは・・・

『政策評価カード』を折れ線グラフ化した物。グラフの数値がなぜ上がったか下がったのかを説明することで、信頼度グラフは根拠を基にした自分の考えを再構成する手段となります！



信頼度グラフは、承久の乱や御成敗式目制定の頃一番高くなり、元寇をきっかけに御家人の幕府に対する信頼は失墜し、グラフも急降下する形になりました。信頼度グラフにまとめたことで、自分なりの根拠を文章で表現することができたよ。



○『政策評価カード』を活用することで、事象を比較・関連付けて考察できるようになり、根拠を基に考え、表現する力を高めることができた。

成果

●多面的・多角的に考える視点を持ち、根拠に基づいた考えをより多く引き出せるように『政策評価カード』を単元に応じて改善する必要がある。

課題